文部省検定済教科書

2	東書	倫社444

改訂 倫理・社会

別記著作者

東京大学名誉教授 東方学院院長	中村　元
国際基督教大学教授	武田清子
東京工業大学名誉教授 日本大学教授	宮城音弥
東京大学教授	相良　亨
東京学芸大学教授	大橋　幸
福島大学教授	菊池章夫
日本大学第二高校教諭	小笠原悦郎
都立三田高校教諭	中村佑二

東京書籍株式会社編集部

表紙　勝井三雄

改訂 倫理・社会

倫社 444

昭和55年1月20日印刷
昭和55年2月10日発行
昭和47年4月10日文部省検定済
昭和54年3月31日改訂検定済

著作者　中村　元・武田清子
宮城音弥・相良　亨
ほか4名（別記）

発行者　東京書籍株式会社
代表者　鈴木和夫
東京都台東区台東1丁目5番18号

印刷者　東京書籍印刷株式会社
代表者　山本芳郎
東京都北区堀船1丁目23番31号

発行所　**東京書籍株式会社**
東京都台東区台東1丁目5番18号
電話　東京(03)835局6111(代表)
郵便番号110

定価　　文部大臣が認可し官報で告示した定価
（上記の定価は，各教科書取次供給所に表示します。）

改訂 倫理・社会

中村　元
武田清子
宮城音彌
相良　亨
大橋　幸
菊池章夫
小笠原悦郎
中村佑二

東京書籍株式会社

学習のはじめに

＜よりよく生きるために＞

人間はだれでも，よりよく生きたいと願う。自分自身をふりかえって，たりないものがあれば，これを満たすことを求めるし，まわりの社会を見まわして，不合理なことに気がつけば，これを是正しようと思う。しかし，よりよく生きるとは，いったいどういうことなのであろうか。そもそも，人生とは，人間とはなんであろうか。人生をどのように生きることがよりよく生きることなのであろうか。この社会はどのようにあることが理想なのであろうか。人生をよりよく生きたいと願う心が真剣であればあるだけ，われわれは「人生とはなにか」「人間はいかに生きるべきか」「社会はいかにあるべきか」などという大きな問題にぶつからざるをえない。

「倫理・社会」を学習する基本的な課題は，このように，自分の人生について深く考え，自分がそのなかに生きている社会について深く思索し，そのあるべきありかたを明らかにすることであり，またさらに，このような反省をふまえて，自己の人格の形成に努め，理想の社会の建設者として，着実なあゆみをふみだす手がかりを得ることである。

＜なにを学ぶのか＞

このような課題にとりくむために，この「倫理・社会」では，つぎのようなことを学習する。まず，われわれが生活している現代社会をとりあげ，現代の意味や現代社会の特質を客観的にとらえ，そこにおける人間関係のありかたを考える。さらに問題をわれわれ自身にしぼって，青年という時期を心理的・社会的側面からとりあげ，人生における青年時代の意味や，現代における青年の立場を考えることにする。このような，われわれの身近な問題を学習するとき，われわれは「よりよく生きるということは，どのように生きることであるか」という問題を，どうしても考えないではいられない自分自身の問題として自覚することになるであろう。

そこでつぎに，この自覚をふまえながら，人生の考えかたと生きかたに

ついて，古今東西の思想家の考えかたを中心に学習をすすめていくことにする。先人の思想から学びとるべきものは，なによりも，よりよく生きるために，たゆむことなく人間や社会の正しいありかたを求めてやまなかった，彼らの自主的で批判的な態度であり，さらにまた，すべての人がよりよく生きうる社会の建設には，人間尊重の精神が根底になければならないということである。

以上が，本書の学習内容を構成している骨組みである。

＜どのように学ぶべきか＞

「人間はいかに生きるべきか」，「社会はいかにあるべきか」というのは，人間の永遠の課題である。きわめて至難な課題であっても，人間はこれを正面から問題にしないではいられない。歴史的・社会的な背景を異にしながらも，この課題を不断に求めつづけてきたのが，人間の歴史であったともいえる。われわれは，先人の思索のあとを導きの灯火（ともしび）として，現在の立場から，先人の課題としたものを，われわれ自身の課題としてとりくまなければならない。

われわれは，おのおのが自主的にこの課題にとりくまなければならないのであるが，自主的ということは，孤立的にかってに考えたり行動したりすることではない。多くの人々と話し合い，多くの書物を読み，つねに自分の考えかたや行動を反省し批判しつつ，より真実なものを求めていくことが望ましい。自分の考えかたを安易に絶対視したり，ひとりよがりの感情的な行動にはしることは，自ら厳にいましめなければならない。

2度とくりかえすことのできない貴重な自分の人生を，悔いのないものとするために，われわれは，いま，いかに生くべきかを考えなくてはならない。われわれは，より気高く，より価値あるものを求めて，それをすこしずつでも実践していかなくてはならない。

著者しるす

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

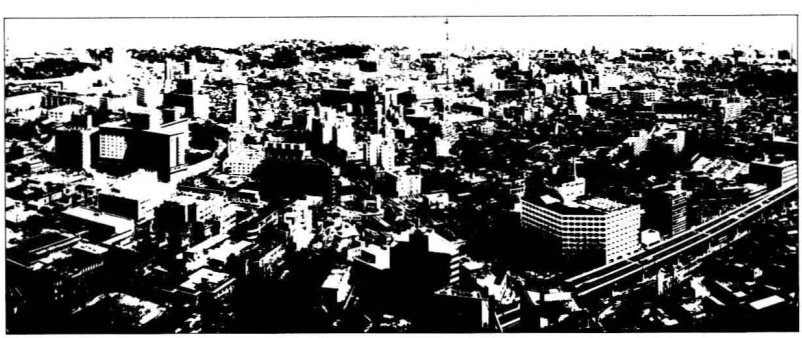
目次

第1章　現代と人間

現代とはなにか……9
1　現代社会と人間……15
(1)　産業社会の特質……15
(2)　大衆社会と情報化社会……21
2　社会集団と人間関係……28
(1)　社会集団の構造と機能……28
(2)　家族集団と人間関係……31
(3)　職場集団と人間関係……35
(4)　地域社会と人間関係……40
3　青年と人間形成……46
(1)　青年と社会……46
(2)　人間形成のしくみ……53
(3)　人間形成の課題……60

第2章　人生の考えかたと生きかた

1　思想の源流……67
(1)　ギリシアの思想……68
1　ソクラテスの実践……69
2　プラトンとアリストテレス……72



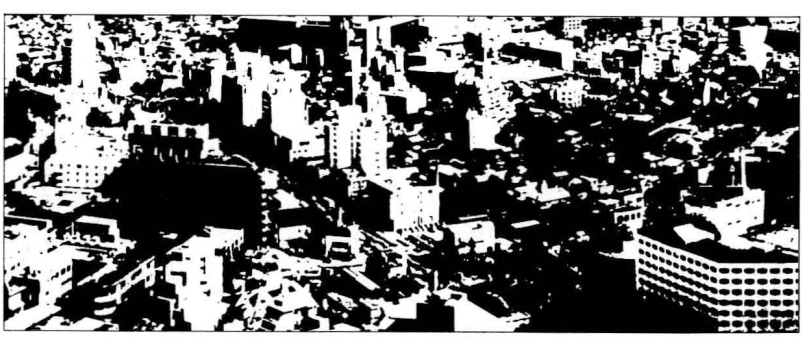
(2) キリスト教 ……75
1 イエス＝キリストの教え ……76
2 キリスト教の発展 ……79
(3) 仏教 ……82
1 ゴータマ＝ブッダの教え ……83
2 仏教の発展 ……87
(4) 中国の思想 ……88
1 孔子と儒家思想 ……88
2 老子と道家思想 ……92
2 思想の発展 ……95
(1) 思想と歴史 ……95
(2) 人間の尊重 ……101
1 ルネサンスの人間観 ……101
2 宗教改革の人間観 ……104
(3) 合理的精神 ……107
1 フランシス＝ベーコン ……108
2 デカルト ……110
(4) 善と幸福 ……113
1 カント ……114
2 ベンサムと J. S. ミル ……118
(5) 個人と国家 ……121
1 ホッブズ ……121
2 ロック ……123
3 ルソー ……125

4　ヘーゲル ……126
(6)　西洋と東洋 ……129
3　日本人の思想形成……134
(1)　日本古来の考えかた ……134
(2)　日本的仏教の形成 ……139
(3)　儒学と国学の考えかた ……147
(4)　近代の精神 ……154

第3章　現代の思想的状況と課題

1　現代の思想的状況……167
(1)　諸思想の対立 ……167
(2)　社会主義 ……170
(3)　実存主義 ……175
(4)　プラグマティズム ……179
(5)　アジアの民族主義 ……181
2　現代の思想的課題……185
(1)　伝統と進歩 ……185
(2)　人権の思想と「差別と偏見」……188
(3)　現代文明と人間的責任 ……193

資料　思索への手がかり ……199
さくいん……221



第1章　現代と人間

現代社会に生きるわれわれ青年の前には，さまざまな問題が提起されている。われわれが，人間や社会のありかたに関する課題ととりくむにあたって，現代とはなにかを巨視的にとらえ，これを明らかにすることは重要な意味をもっている。

そこでまず，現代社会の諸特質を科学的にとらえ，問題点の所在を明確にしよう。つぎに現代社会における人間関係のありかたについて，その問題をも考えてみよう。これらのなかから，今後われわれ自身が解決をめざしてとりくむべき課題を見いだすことが必要である。

しかも，われわれはいま，複雑多様な現代の状況のもとで青年期を迎えている。現代の課題にたちむかっていくためには，自分自身のうちにもっている多くの悩みとたたかいながら自分を育てていかなければならない。現代によりよく生きるために，青年期における人間形成の課題を深く自覚することがたいせつである。

ラグビーの試合

秩父宮（ちちぶのみや）ラグビー場

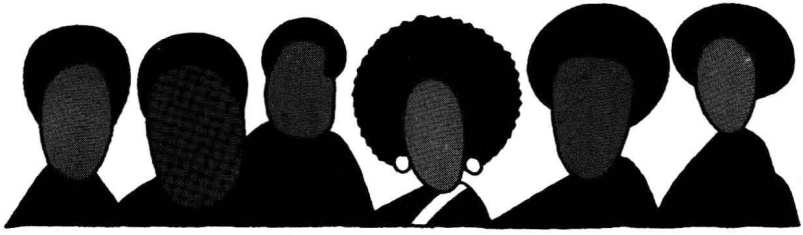
現代とはなにか

1●人類の進歩と課題●

第二次世界大戦後，世界全地域にわたるいちじるしい現象として，人権意識の高まりがある。アジアやアフリカの諸民族は，長年にわたる植民地状態から脱し，大小いくつもの独立国を誕生させ，国際社会においても大きな力をもつようになってきた。こうした民族独立の気運は，人権意識の高揚によってささえられている。人権意識の高まりは，旧植民地国のような，いわゆる発展途上国だけにみられる現象ではない。たとえば，アメリカ合衆国の黒人問題にみられるように，先進国における社会矛盾や差別と偏見に苦しめられてきた人々や，少数民族などにおいても同様である。

南アフリカ共和国における黒人の市民権の要求は，今日，世界の注目をあびる問題となりつつある。また，アジアにおいては，バングラデシュのパキスタンからの独立も，一国内における少数民族の差別と偏見に対する人権の主張のあらわれとみることができる。

このように人権尊重思想が浸透し，民族の独立の気運が高まるにつれて，文化の価値に対する考えかたにも変化があらわれてきた。西洋先進国の文化を人類の文化の価値基準とするのではなく，各民



试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

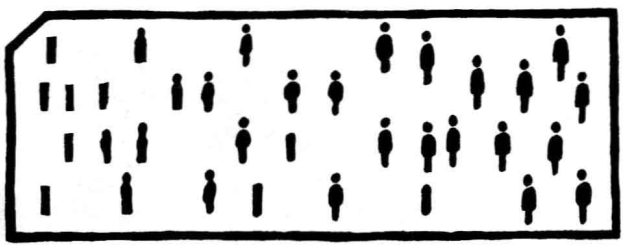
族がきずきあげてきた歴史とその文化に，それぞれ独自の価値を認めようとする動きである。そして民族衣装や，音楽・絵画・建築様式，あるいは宗教・思想・哲学など，諸民族が伝統的に育てあげてきた多様な文化が，人類の文化を豊かにするということを，人々に自覚させるようになってきたのである。このことは，発展途上にある諸民族を含めて，世界の諸民族の歴史と伝統的文化の個性的な価値に対して尊敬の念を新たにさせてきたといえよう。

またこの反面，現代においては，マス＝コミュニケーションや交通機関などの発達によって，ひとつの国，ひとつの地域におこったできごとが，ただちに他の地域に伝達され，それらはたがいに影響をあたえ合う。その意味で，人類全体が今日ほどたがいに接近したことはない。

とりわけ，技術文明の進歩がもたらした産業社会化や，高度の人口集中にみられる都市化の波は，先進国だけでなく発展途上国にも一様におしよせつつある。こうした進展は，伝統的な社会構造をきりくずし，世界諸民族の文化や文明の質を画一化する傾向をうみだしている。それは同時に，人々の生活様式や意識の平均化と非個性化をもたらし，いわゆる大衆化の現象をうみだしていくのである。

2●創造と破壊の2つの道●

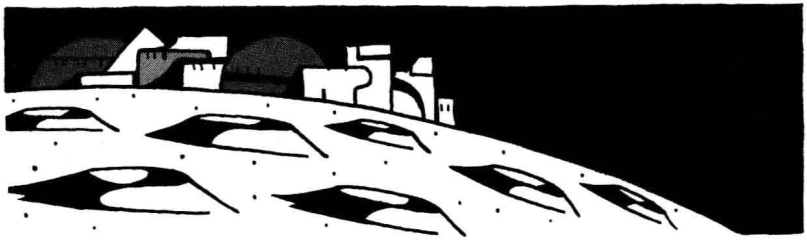
科学・技術の進歩は，思いもよらない新しい状況をうみだしてい



る。たとえば，コンピューターの発達によって，膨大な情報が短時間に処理されるようになると，巨大な規模で人間を組織化することも可能になってきた。国家機構をはじめ，大企業や政党，あるいは各種のマス＝メディアなどは，いずれも巨大な組織のなかに人間のエネルギーと時間とをすいあげ，思考と生活のすみずみまでを支配しようとする。このような社会では，指導的立場にある少数の人々をのぞき，他の大多数の人々は，個性的な価値を失って，巨大な組織のひとつの歯車のような存在となってしまうおそれが強くなってくる。このような存在にあまんじて，真の幸福，豊かな文化創造というような高い価値への意欲や関心を失うなら，それは人間が自己の主体性を失い，創造性への責任を捨てさることになるであろう。

現代はすでに宇宙時代にはいったといわれるように，人類はいまや地球を外から見ることのできる能力を獲得したのであり，アポロ11号によって，人間が月面に立つことが実証された。また，原子力の発見と開発によって，人間は巨大なエネルギーを人類のために役だてることができるようになったが，それは同時に人類破滅のおそろしい破壊力をも自分の手ににぎったことを意味する。

また急速な産業社会化は，自然の生態系を破壊するというおそるべき状況をもうみだしている。地球というかぎられた物質的環境のなかでは，自然の循環過程や機能をもとにした計画的な生産活動が営まれなければならない。人間のためになされるはずの生産活動に



よって，人間の生存自体がおびやかされるような状況が，すでにあらわれているのである。

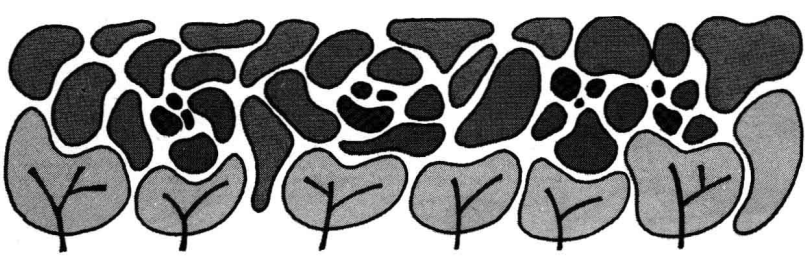
現代は，まさにこれらの諸要素がからみ合ってわれわれをとりまいている状況にあるのであって，人類は，すばらしい創造性と，とりかえしのつかない破壊性の両方のかぎを手にしているといえよう。

3●社会現象と人間とのかかわり●

現代のこのような状況は，今日と未来の社会形成に主体的にかかわることの意味をわれわれに問いかけているといってよいであろう。われわれはこの問いかけにどのようにこたえていくべきであろうか。

産業社会化や都市化，あるいは大衆社会化といった社会現象が，個人の考えやねがいとは関係なく，さまざまな客観的な条件や要因の組み合わせによって形成されていく面のあることは否定できない。

しかし社会現象は，われわれ人間から客観的に独立した自然現象のようにおこってくるものではない。このことは，産業社会化がもたらす公害問題についてみても明らかである。私企業は，利潤を追求するあまり，生産活動によって生じる災害を，地域住民やほかの産業などに，生活環境の悪化や生産の阻害という形で負担させているという実状がある。このような不合理の改善には，私企業のもたらす公害は自らの負担によって解決させるという規制が必要である。そして産業化優先の政治から，国民の福祉を優先させる政治への転



換がたいせつであることを，われわれは深く考えなければならない。

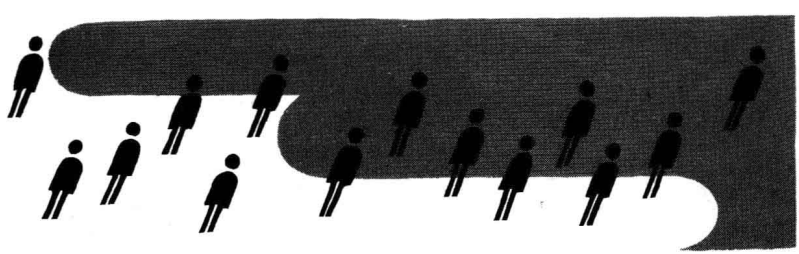
社会現象は，人間ひとりびとりの行動のからみ合いのなかからうみだされてくるものであるから，その行動のさまざまの動機を手がかりとして，相互の関連を明らかにしながら，社会現象を科学的に解明していくことが必要である。

4●歴史を形成する力●

人間はけっして社会体制の従属物ではなく，社会現象に左右されるだけの存在でもない。そして人類の歴史もまた，人間のねがいや意志と無関係に，ある一定の法則によって運命づけられているのでもない。たしかに歴史はある必然性をもって進展していく面があるが，それ以上に，開拓的な指導者やめざめた民衆など，主体的な人間のはたらきかけによって新しい発展をしていくものである。

明治維新の初頭にあって福沢諭吉は，自主・独立の精神にもえた人間こそが歴史を方向づけ動かす力となるとして，学問することのたいせつさを説いた。そして「文明」とは，民衆の精神のはたらきが活発になっていくことだと説き，当時の日本人に自主的な進取の気概をもたせるうえで大きな影響をあたえた。

また，インドの独立運動を指導したガンディーがもっとも重視したのは，インドの民衆が自分自身のなかにある非人間的な思想を克服することによって，イギリスの非人間的な思想と政策とに向かっ

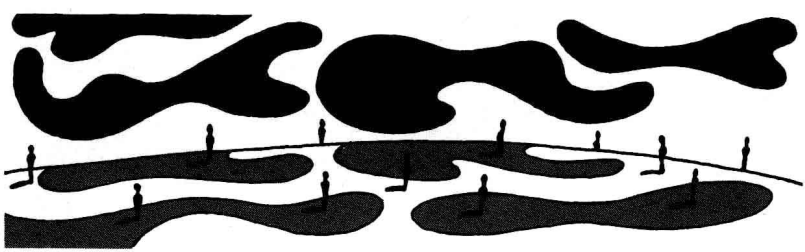


て，悔い改めを要求する運動をおこすことであった。毛沢東（もうたくとう）が強調してきたことも，中国の人民が社会改革の意味を理解し，それを主体的におしすすめることであったようにみうけられる。

5●科学的認識と決断●

われわれは歴史のなかで，いくつもの選択の可能性をはらんだ決断の場に直面する。それは個人のあゆみにおいても，小さなグループ，あるいは国家・民族においてもそうである。われわれは多くの外的条件の拘束を受けながらも，なおそこから，自由な選択をすることができる。歴史は人間にとって選択の場であり，また決断の場である。われわれは，自分自身こそが，社会の進展と歴史形成に方向と意味づけをあたえる責任のあるひとつの主体であることを忘れてはならない。

たとえば，公害を克服することのできる社会のしくみをつくるためには，現状とその改革の方向とを科学的に認識し，これをもとにした倫理的決断が必要である。大衆社会において，非個性的・非主体的な声なきマス（大衆）となるか否かは，われわれが現代の状況にどうかかわっていくかということによるのではなかろうか。われわれがなんらかの価値意識，倫理観，思想をもって社会の現実にたち向かい，その形成に主体的にかかわっていくとき，そこにおいて，倫理と社会とは，きり結ぶことになるのである。



1　現代社会と人間

われわれはいま，めまぐるしく変化している複雑な社会のなかで生活している。現代の社会には，産業社会化と大衆社会化という2つの大きな流れがあって，われわれは，大なり小なり，これらの流れのなかに身をおかざるをえない。そこで，はじめに，産業社会化や大衆社会化とはどういうことか，またそこには，どういう特質があるかということについて考えてみよう。

(1)　産業社会の特質

産業社会化のあゆみ

狩猟と採集の原始社会から，農耕と牧畜を主とする農業社会へ変わるまでには，数十万年を費やしたが，それにくらべると，驚くほど短い年月のあいだに，農業社会から産業社会へ変わっている。産業革命は，18世紀後半のイギリスにおこり，19世紀には世界各地に波及した。この動きは，繊維工業などの軽工業にあらわれ，科学技術の発達にささえられて，鉄鋼業・機械工業・化学工業などの重化学工業へとおよんだ。産業社会においては，機械とエネルギーを利用して資源を加工する工業生産が重要な位置を占めているが，工業生産の発達は，必然的に商業，金融・保険・サービス業などをはじめとして他の産業部門の発達をうながす。したがって，産業社会化がすすむにつれて，第1次産業人口の比率が下がり，第2次・第3次産業人口の比率が上がる傾向をもつところに，産業社会の基本的な特徴がある。

わが国の産業社会化（industrialization）は，イギリスより約1世紀おくれたが，その速度はめざましく，第一次世界大戦のころには，すでに産業構造に

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com